

平成10年4月8日

－多世代が安心して豊かに住める魅力ある生活環境の形成－

『上池袋地区まちづくり提言書』まとまる

8日、上池袋地区まちづくり協議会（会長 齊田 増巳氏）は、「上池袋地区まちづくり計画に関する提言書（第一次提言）」を加藤一敏豊島区長に提出した。

上池袋地区の大半は密集市街地で、狭あい道路や行き止まり道路が多く、建替を阻害する老朽住宅も多いため、防災上・生活環境上の問題を抱える地区である。こうしたことから地元では、安全で快適なまちを実現するため、平成7年10月24日に「上池袋地区まちづくり協議会」を設立し、まちづくりについての検討を開始した。

協議会の構成は、齊田増巳氏を会長とし、町会関係者33名、一般公募から選ばれた地元住民8名。よりきめ細かな検討を重ねるため、地区内を4つのブロックに区分し、各地区毎にそれぞれ積極的に取り組診、計48回にも及ぶ検討を重ねてきたが、今年3月、地区全体のまちづくり計画（第一次提言）としてまとまった。

提言書は、まちづくりのテーマを「多世帯が安心して豊かに住める魅力ある生活環境の形成」とし、地区の現況と課題を踏まえ、まちづくりの方向性を以下の6項目に整理している。

①道路整備

防災上有効な地区道路等の整備を行い、子供や高齢者が安心して歩ける道路の整備を行う。また、避難の妨げとなる行き止まり道路を解消する。

②緑道（自転車歩行者専用道路）の整備

避難路、日常の通勤・通学路、散歩道として池袋駅から板橋駅へつながる緑道の整備を行う。

③公園等整備

災害時の一時的な避難場所や日常のゆとり空間としてふれあいの場となる公園を適切な場所に配置する。公園計画については計画段階から住民が積極的に参加する。

④老朽住宅の建替え促進

危険な木造老朽住宅は、建替の促進を地主に要請するとともに、場合によっては、区がその用地を取得する。

⑤防災対策

初期消化のための防火水槽を適正配置し、公的施設や大規模敷地には水槽の設置を要請する。明治通り等幹線道路沿道は、避難路や延焼遮断帯としての役割を持った不燃化建物の促進を行う。大震災時には倒壊の恐れのあるブロック塀は、公的施設や大規模敷地を中心に、景観を配慮した生垣化等の促進を行う。

⑥その他

大規模民間開発は、周辺住民の意向が反映できるルールを設ける。明治通りの歩道は歩行者等通行量が多く、放置自転車や商店のはみ出し商品、歩道橋等により歩行者空間が狭いため、安全で快適な歩行者空間の確保を図る。通りの愛称名の設定についてサイン計画を行う。

提言書の提出に際して、齊田会長が「できるものから、一つでも実現していただくようお願いしたい」と述べると、加藤区長は「提言書は、良くまとめられ分かりやすい内容になっており、皆さんの苦勞を肌で感じる。できることはどんどん実現し、提言書の趣旨に沿ったまちづくりを進めていきたい」と話した。

また、会員からは「ブロック塀を生垣にして欲しい」「緑道と路地を接続して袋小路を無くしてほしい」など具体的な要望も出された。

詳細 (財)豊島区街づくり公社 事業推進課